

私のボランティア活動

関東支部 大久保雅弘

会社卒業と同時に始めたボランティア活動も、開始以来二十数年となりました。

私の父親は、近衛兵として皇居に居住していましたので父の顔も写真でしか知りませんでした。父親の慰霊を兼ねて私を含めた戦没者遺児の「遺族会」のお手伝いとなりました。

当初は会員の海外霊巡拝時のミャンマー（ビルマ）・フィリピン・中国などへ、添乗員として活動していましたが、現在は市町村遺族会に所属し事務局として動いています。

戦後八十余年が経過する今日に於いて、その戦争の被害者である遺児も平均年齢 83 歳と高齢化し、当時の会員は二千名余でしたが今では九百余名と激減しています。

仕事は市町村との補助金の交渉や、例年数回挙行されている慰霊祭参加者の選任や慰霊巡拝参加のバス添乗員、総会資料作成やハガキ送付などが必須となっています。

その他、ここ数年では

- ① 会員の高齢化に伴う遺族会の維持存続問題
- ② 多数建立されている慰霊碑の管理、移設、埋設等の対応や費用問題

等々、各地区との話し合いへ出かけての解決策の模索などで、日々、格闘しております。

合わせて各役員の後任者探しも難しく、私とて今では「引くに引けぬ」立場となってしまい苦慮しております。

また、家庭内に於いても部屋に閉じこもりパソコンと向かい合うばかりで、家庭サービスも疎かとなり内外からの苦情処理に翻弄されておりますが・・・・・・・・

さて、皆様方は日々如何お過ごしでしょうか？
お教え頂ければ幸いです。

2023年4月26日記